

# まちネットワークより まちネット寄居 私たちから発信しよう 私たちのまちづくり

## さあ 手をつなご!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

# はじめての 選挙公報を悪用

## モラルを欠いた候補者が・・・町長選挙

### 平然と虚偽記載

はじめて選挙公報が配布された。出せば出せるじゃないか。やっと手にした～と思ったのもつかの間。えっつ、本当? 何と現職の埼玉県知事名で「寄居町の発展には高橋君しかいません。ご支援を最後までよろしくお願い致します」の表明が掲載されていました。ネットでは、県知事の特設秘書にこの上田知事名の文章の真偽を直接確認したところ、「一切知らない。知事は許可もしていないしその文面も見えていない」という返答でした。そして、知事側は「すぐさま高橋陣営に抗議し、来年の統一地方選挙に向けて二度とこのようなことの無いように県の選挙管理委員会から各市町村の選管へ注意をするよう働きかけた。」ということです。

### こんな公報いらないの声も!

平然と嘘の掲載をするという行為が、寄居町の首長を選ぶ町長選挙で行われたのです。私たち寄居町の有権者を全く馬鹿にした卑劣な行為です。まして、県知事という公職に有り町民に大きな影響力を持つ立場の知事名を勝手に使い、絶大な支持を受けているといった宣伝は詐欺としか言い様がありま

せん。私たちはこれを黙って見過ごすことは出来ません。黙認することはこれからもくり返されることとなります。この公報の虚偽記載に対して町議の中からは『こんなウソがまかり通るような公報だったら必要ない』といった声も上がったと聞きます。たくさんの人たちの手でやっと発行までに至った選挙公報です。私たちは憤りとともに断固抗議します。

### モラルの通用しない選挙

発行責任者としての寄居町選挙管理委員会はどうなっているのでしょうか? ネットでは8月9日寄居町選挙管理委員会を訪ねました。そこで分かったことは、「選管では公報原稿が規定の範囲内に収まっているか、写真があるか、といったことはチェックしても内容に関する調査権は一切ない。」「政策とは関係しない知事の支持文章に対して許可を得ているのか確認をすることはできるのでは」という私たちの問いに、「仮に虚偽記載があっても訂正させる権限もない。」要は候補者のモラルの問題だということです。公職選挙法の中で警察が調査し、立証しない限り摘発できないということでした。



選管では、あくまで不正な記述はないことを前提に対応している。虚偽記載があっても罰則もない。どうすることも出来ないということです。でもやはり釈然としません。高橋陣営も選挙終了後であっても、この詐欺まがいの記述に対し道義的な責任において町民に謝罪と訂正の文書を配布するべきです。また、選挙公報を手にしたのは投票2日前の金曜日でした。もっと短縮できないの? しかしこれでも最短の発行だということです。

### またもや差出人不明の卑劣な文書が

今回の町長選挙でも、島田候補者の誹謗中傷が書かれた差出人不明の郵便物が多く送りつけられました。いつまでこのような低俗な選挙が繰り返されるのか、と暗澹たる思いになります。私たち有権者はこんな卑劣な行為に断固ノーを突きつけ、公正でクリーンな選挙を呼びかけていきましょう。

# あの時が、今につながって

先日行われた町長選で、選挙公報が発行されました。それを手にしたとき、なんとも言えない思いがこみ上げてきました。ようやく今、形となって手元に届いたな・・・と。

そう、今から3年前、町議選を通じて「選挙公報を寄居町にも!」という思いを強くした‘まちネット寄居’は立ち上がりました。ほとんどの自治体で当然のように発行されている選挙公報なのに、寄居町には何故ないのかと町に尋ねると、条例がないからだという返答。では、条例を作るように働きかけよう〜と周囲の団体や個人の方に声をかけました。すると、選挙公報がないことに疑問を抱いていたという人がたくさん集まったのです。そして「寄居町に選挙公報条例を作る会」としての活動が始まりました。ちょうど町民体育大会が頻繁に開催される時期、私も市街地運動会へ署名活動のために足を運びました。ひとりひとりに署名の主旨を伝えると、真剣に耳を傾け、心から共感してくださった方の多かったこと。「そんな活動をしに来たのか!」と言われるのでは・・・?という不安な気持ちは希望と確信へと変わりました。集まった署名は1710筆。更にほとんどの町議が紹介議員として名を連ね、そしてその年、寄居町は、選挙公報が発行されないという希少な自治体から、ようやく抜け出したのは言うまでもありません。ただ、今回の選挙公報。発行日が遅かったこと、高橋候補の掲載事項についての疑惑、など、やや後味は悪かったですが・・・。

遠藤明子



## 町長選で学んだこと そして 私たちの宿題

島田まこと氏 8008 票、高橋睦氏 6042 票、原口孝氏 4013 票。投票率 61.26%。先の町長選挙の結果です。4期に及んだ現町政が終わります。数々の品位を欠いた有権者を冒瀆する選挙を行った候補者がいましたが、ここでは評価について考えてみます。

### この16年間に新しい資源は開発されたか

周辺を見渡してみよう。16年間の現町長のもとで、新しい創造性のある起業や産業がこの町で起こったのでしょうか。寄居町を担う「人材」が育ったのだろうか。可能性を秘めた開発やますます高度化する情報社会、高齢社会に対応するインフラなどは進んだのでしょうか。もっと言えば、私たち町民が主体性を持って寄居のまちづくりに参加できたと思いますか。

「まだやり残したことがある」と引退を取り消して4期目の町政を担った結果は「この16年間はなんだったのか」と溜息が出てしまうのが正直な感慨だと思います。

市民運動の勢いが、その町の勢いだといわれます。公共施設の有料化などは、そうした個々の市民活動を制限させることにつながります。そして、市民の活動は、地域の資源と結びつきます。どこの自治体も住民活動を積極的に支援、参加を促している背景には、もう、まちづくりは行政だけでは立ち行かなくなったことが上げられます。

住民の当事者としての力と知恵が柔軟な行政とサービスを生むことになる、と理解しているからです。住民参加は、大きい意味で、これからの地域社会資源と言えます。こうした資源の開発が、長期政権のもとで、どれだけあったか、と言いたいのです。

### 地域のボス・顔役の一掃に期待

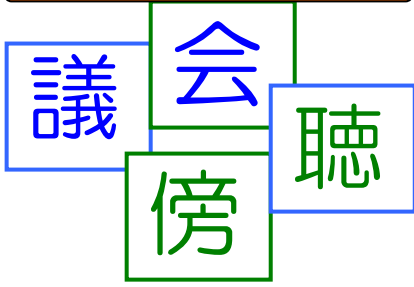
16年間、この町は、慣例、前例主義が染み込み、その中で、地域の顔役やボス的存在の名士が台頭し幅を利かせてきた、と感じています。“選挙違反的”行為を支援し、告示後は禁止のはずのチラシなどをセッセと各戸に配布した人たちは今回の選挙をどう評価するのでしょうか。「流れを変える、チェンジ寄居。親身な町政」を掲げた島田氏にこれからの町政を預けたのは賢明で意義のある意思表示だったと思えます。

### リーダーシップとパートナーシップ

島田氏を当選させた責任が、次は私たちに課せられた宿題です。任せた後は批判するだけ。それは新しい流れをつくる、という島田氏を支持した責任ある姿勢ではない。

積極的な町政への関心と参加。情報の開示や議会のあり方。地域社会・福祉資源の開発への参加とその仕組みづくり。次代を担う「人材」育成…。たくさんの地域問題とその解決は、私たち個々の主体的なかわりから始まります。

こうした解決にどうリーダーシップを発揮し、どういったパートナーシップが取れるか、期待は少し、関心は強く、注視しないといけない。町民みんなです。



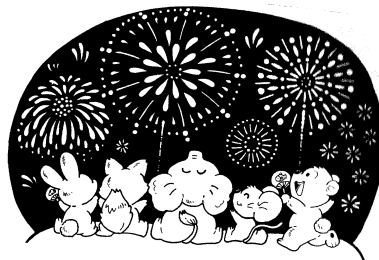
## 旧熊谷保健所 寄居分室はどーなるの？

3月末に県が閉鎖した熊谷保健所寄居分室跡地についての岡本議員の一般質問に対する町の答弁は、『県からの買い受け希望照会に対し町は、“建物を解体撤去し更地にて無償贈与”を求めたが、その後、県からの正式な回答は来ていない。昨年の議会議員全員協議会でも答弁したが、市街地公民館は利用の考えがないとのこと。精神障害家族の会の活動場所として、現在はその活動内容により、かわせみ荘やユウネスを会場として無料提供しており喜ばれている。建物は、築29年。耐震工事や冷暖房、エレベーターなどのリニューアルに4,400万円以上かかり、修繕費、管理費も多額となることから建物の利用は考えていない。

障害者交流センターは、第5次寄居町総合振興計画の後期基本計画（平成24～28年度）の中で検討したい。関係団体ははじめ幅広いご意見を拝聴して参りたい。』というものだった。約7千名もの署名請願が議会採択されたという重みをどう考えているのか？

可決した請願を反故にした議会、無視する町。一体、この町はどうなっているのか？土地建物を県から無償譲渡を受けることも可能だったのに・・・4,400万円+αは本当に高いものなのだろうか？建物の有効利用を費用対効果の側面から詳細に検討して答えを導き出し、町民に示すことが重要なプロセスなのに。

篠原由実子



## 午後的一般質問の傍聴から

事業仕分けに関して質問。近隣では深谷市、神川町などが事業の見直しを実施。深谷市では20事業を仕分けする中で、現状維持6事業、要検討6事業、不要7事業、民間委託へ1事業といった結果となる。寄居町での見直しはどのように考えているかといった間に、町では行政改革推進会議として対応、事務事業評価を導入したいといった返答。新しい試みに関する柔軟な姿勢は相変わらず見られない。また、生活保護に関して寄居町の実情を知る。生活保護費の負担率は、4分の3が国、県が4分の1となっている。町の保護率は、2007年以降0.95%、1.07%、1.21%と上昇し昨年は県の平均1.01%を上回っている。高齢化、雇用の悪化などの影響が大きいという。最も質問者は、生活保護率の大きな増加の問題そのものより、不正受給を危惧するという視点での質問だった。大企業役員の8億円以上の報酬の傍らで一般労働者の報酬は低下し、生活保護者の増大は急増の一途。この社会の構造自体がおかしい。ちなみに寄居町での不正受給は4件とのこと。

大北秀子

### ◆6月寄居町議会一般質問

	田母神節子	佐藤理美	佐野千賀子	稲山良文	石井康二	岡本安明
福祉・健康・育児	国民健康保険 ・後期高齢者医療 制度・介護保険 ・生活保護	ひとり親家庭支援 対策・子宮頸がん 予防ワクチン補助	子ども医療費無料 化拡充	生活保護制度の実 態		
教育・学校					全国学力・学習状 況調査の実施と対 応、命を大切にす る学習・電話相談	
環境						
観光・産業 ・地域経済			“スケッチの町寄 居”でPR			
道路・交通・水道	地域公共交通活性 化事業で足の確保	高齢運転者事故防 止対策(駐車場・免 許自主返納)				
救急・防災・防犯						
交流・市民活動 ・自治・人権						旧熊谷保健所寄居 分室の活用
上記以外の 生活と暮らし	高齢・障害者世帯 ごみ戸別収集		公共施設に杖立て 設置			
行政・政策・議会				事業仕分け・行政 改革		
その他						





# ダンボールコンポスト交流会

少し遅くなりましたが、生活クラブ寄居支部と共催で開催したダンコの交流会の報告です。本降りの雨の中13名の参加がありました。はじめて参加の人も。当日はダンコを開始して数日のもの、1ヶ月以上経ったもの、そろそろ終了の3段階の現物が揃いとてもよい参考になりました。

ミントを入れてかき混ぜると、室温やダンコちゃん温度が高くても、爽やかでとても涼しい気持ちになりお勧めです！

とっても手軽にできるダンボールコンポストが、寄居町をはじめ、いろんな自治体で普及してくれるといいなあと願っています。ありがとうございます。

小鹿野佳子



## アロマダンコで快適

おもしろそう~と思ったものは、やってみたくなるタイプ。2年前にあったダンボールコンポストの講習会への参加も、そんな気持ちからでした。その時、お話をしてくださった方が、とても楽しそうに続けている様子でしたので、これなら私も大丈夫かなあ・・・とチャレンジしてみました。

始めた頃は温度が上がれば喜び、下がると不安になり繰り返して、その度、いただいた資料で確認したり、友人と情報交換をしたり、インターネットで調べてみたりと、最近やっと、ダンコちゃんの好みや温度の上がる組み合わせ(?)のようなことがわかってきた感じです。

先日の交流会では、ちょっと傷んできたかなあという物を入れてみての結果や、終了後、肥料として使ったことなど、いろんなお話や工夫されていることを聞かせていただき、とても参考になりました。

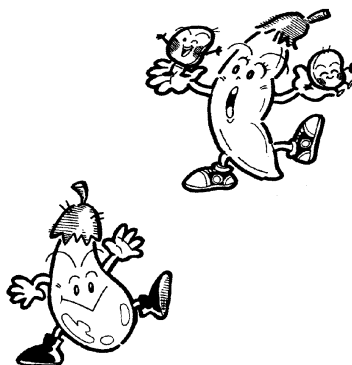
我が家ではキッチン横に置いて、調理しながら野菜くずなどを入れ、最後にかき混ぜています。心配していた臭いも気になりませんし、そばにあるので、億劫になることなく続けられています。時々、ミントを入れていたと交流会でお話させていただいたところ、アロマダンコの名前をつけていただきました。夏場に

## 目からウロコの威力

今まで生ごみは、台所にバケツを置いて貯めたものを畑に持って行って埋めるという処理をしていました。虫がわく、夏場は腐って臭がすると本当に不快なものでした。ところがダンボールコンポストにしたら、匂いも虫もなくなりびっくり。肥料としても扱いやすく畑で利用するのが楽しみです。

長年にわたって生ごみ処理に悩んでいたので、このダンボールコンポストは「目からウロコ」の処理法と感激しています。夏場は野菜くずも多いのもう1箱始めようと思っています。

久代恵美子さん・談



## どんな政治団体がある？

### ●神奈川ネットワーク運動 市民政治入門に参加して

「政治団体」といわれるとほとんどの人が既存の政党名を挙げる。もちろんネットも政治団体だが、その他の政治団体は？と聞かれるとなかなかびんとこない。しかし実際は、ほとんどの業種、職業は政治連盟を結成している。日本弁護士政治連盟、日本遺族政治連盟、全国商工、商店街、医師、歯科医師、税理士、司法書士、建築家、農業者、酪農、看護師など等。これらの政治連盟は国や自治体へ必要な陳情を求めめるために結成された政治団体とされている。が、現実には権力を持つ大きな政党への献金などにより利権の構造がくまなく出来ているともいえる。長期自民党政権下の驚くべき構造だ。今更ながら日本の社会の現実をおもい知らされる。そんな中で政治をしてはいけない団体がある。特定の政党の支持、寄付を禁止されている団体だ。NPO 法人（特定非営利活動法人）そして消費生活協同組合だ。なぜこの二つの団体はいけないの？自分たちはどんな税金を払っているの？こんな切り口で「そうだったのか」と政治の基礎を学ぶことができた。「それにしてもあまりにも知らなすぎる」と痛感。

報告 大北

# みんなの居場所って?



## 身近なところで安心して会話ができる場所、皆に会える場所

●主催：熊谷ブロック地域協議会  
(地域協議会は熊谷ブロック内の地域ネット、生活クラブ、ワーカーズ、自主活動グループで定期的  
に開催されている集まり)

6月15日、生活クラブのエッコロ助成団体、地域ネット、ワーカーズ、自主活動グループの交流会と「みんなの居場所わ〜くわっく北本」の見学会が行われました。7団体参加。

2009年4月、生活クラブ北本生活館内でワーカーズ「てとて」の運営による「みんなの居場所わ〜くわっく北本」がスタート。

生活クラブの福祉事業の中で、介護保険外の事業として「居場所事業」は埼玉では初めての取り組みです。地域で支え合う仕組み作り「みんなの居場所作り」は、老若男女、障がいのあるなしを問わず、今私たちの身近な地域でも緊急に求められています。北本生活館での居場所事業はこんな社会のニーズから、一つのモデル作りとしてスタートしました。事業内容は、地域サロンとして1日100円で自由に誰でも利用が可能です。利用者が興味を持てるような各種教室のほかコンサート、北本市の出前講座などイベント開催、自分らしく暮らすための相談の場、孤立化を防ぐ出会いの場などが計画されています。また、親子でサロンを利用することもでき、託児も1時間700円で設置されています。離乳食の講習会、子育て学習会など多岐に渡っていて新米ママさんも親子で参加でき仲間作りも。館内では手作りの美味しい日替わり

メニューの食事もできます。お茶は無料で自由に。誰でも気軽に利用できます。

今までの居場所における事例を幾つか聞きました。

### 市内に転入してきた 60代の独居の男性

最初はふらっと看板を見てこられた。独居のため地域との関係性がなく市内の様子もわからなかったようです。居場所を利用することで話し相手もでき、居場所での食事をするなどが外出する動機を生み、書道教室や押し花教室などへの参加で前向きな生活となり孤立化を防ぐ役割を担った事例です。

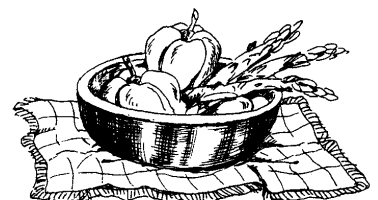
### 進行性難病をかかえる独居の 50代男性

民生委員の紹介で来所。障害厚生年金と公的医療給付以外は社会資源と結びついていない状況で、将来に対して不安があり落ち込んでいたようです。少しずつ今後の生活設計や、利用出来る社会資源の情報提供を行ないながら対応しました。最初はここに来てやっていると云々雰囲気も少しありましたが「私に出来ることはありますか」という前向きな変化も出てき、自分の居場所として感じられるようになってきたようです。発病までは仕事一筋で地域につながりもなく行政の窓口や医療機関で不信感を持ったために、人生に諦め気分になっていました。居場所ですべての話を交わすことで、少しずつ

信頼を得、「目の前が明るくなった」という感想もできました。現在障害者手帳申請支援、さらにこの春には生活保護につなげていく予定。居場所が地域で孤立している男性のコミュニケーションの場、福祉相談の場となっている事例です。

当日も、生活館前の植木の手入れをひとりの男性が行っていました。依頼されてではなく、個人の自主性でということでした。誰でも人の世話になるだけでなく役にたたいという思いを抱えて生きています。対等な関係での居場所が目標です。

思わず私たちの寄居町でも、この取組が小学校区に一つあればな〜と願わずにはいられません。今後のまちづくりの課題として、大変刺激と参考になった見学会でした。高齢化率もますます進み、独居率も高くなり、子育ても孤立化、突然障がい者となった場合など、本当にこの地域で安心して暮らせるのか…。深刻な状況が近づいています。普通に暮らす中でのみんなの居場所のあり方を、今後も調査、学習していきましょう。



下記の文面を 2010 年 6 月に 上田清司埼玉県知事へまちネットワークよりい代表名で提出しました。

## 彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業環境影響評価準備書に対する意見

私たちは暮らしの中からまちづくりを考え活動している団体です。彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業の計画当初より地元住民として、生活者の視点で要望、意見、陳情書などをあげてきました。これまでの環境整備センター、彩の国資源循環工場の稼働にともなう自然環境・生活環境への影響を肌で感じている状況の中にあつて、その危機感を持って下記意見を提出し、善処を求めます。

### 記

- 資源循環工場第Ⅱ期事業は、埋立処分場以外は具体的な事業内容が未定の状態です。  
このような状況下で予測した環境影響評価は当然不十分なものと考えられます。具体的な事業が決まり次第、再度測定内容を検討して調査の実施をしてください。
- 廃棄物の最終処分はたいへん危険性の高い事業です。地元住民の多くは埋立地の拡大を望んでいません。環境整備センター内の現埋立処分場は、ここ数年廃棄物処分量の搬入、埋立量は減少傾向にあります。現在 51.7%の埋立状況と聞きました。新たな埋立処分場の造成は、今後の廃棄物量の推移を的確に捉えながら、平成 24 年竣工、操業開始という計画を見直し、造成を延期してください。
- 今回埋立地における自己修復機能を有する遮水シートは、その耐久性は半永久的であるというメーカーの説明とのことですが、これは鵜呑みにはできません。経年劣化などによる遮水シートの損傷は当然考える状況です。そのためにも地下水、水位、水脈の詳細な把握をもっと高めてください。
- 環境影響評価の中には、事故災害、人為的ミス、技術的、社会的リスクはほとんど評価されていません。これらは、住民にとって最も懸念される事柄であり、重大かつ重要な危機管理事項として位置づけるべきです。平成 18 年に起きた資源循環工場内の鉛、ダイオキシンなどの流出からも想定できるように最大限のリスクに対する環境影響評価を明記してください。
- 環境影響評価の調査測定機関は、埼玉県の選定事業者だけではなく住民の希望する業者とのクロスチェックとし、公正性の高いものとしてください。

以上

## information

# お知らせ

### ●「今しか聞けない戦争体験のおはなし」

今年は、SVO（廃食油）を使ったマイクロバスで丸木美術館へ見学に行きます。

10月の予定ですが、詳しくは後ほどお知らせします。お楽しみに。

### ●まちネット寄居臨時総会

2011年、統一地方選挙に向けてまちネット寄居の対応を話し合います。期日は未定ですが、決まり次第ご連絡します。



ネット会員募集中  
いつでもどうぞ！

一人の声は小さくてもみんなの声が集まれば、少しずつ変わっていきます。

問い合わせ・申し込みは

大北 TEL582-4073 まで

## 編集後記

ネットの推薦した新町長が誕生した。町民への約束として掲げた政策は広範囲に及ぶ。新町政が軌道に乗るまでは多くの時間と財源もエネルギーも必要。新しい流れを作り出していくためにも、今後のわたしたち町民の積極的な市民自治につながる参加が重大となってくる。一步一步確実に前進していくしかない。そのためにも批判だけではない市民の自治への力を高めていかなければと痛感する。